

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：14701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04783

研究課題名(和文) ポストアート時代に構想する重層的な美術教育カリキュラムモデルの開発

研究課題名(英文) Art Education Curriculum In The Post Art Era

研究代表者

永守 基樹 (NAGAMORI, MOTOKI)

和歌山大学・学内共同利用施設等・名誉教授

研究者番号：40164470

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：ポストアート時代とも言われる21世紀における美術教育のカリキュラムモデルを、以下の三者による重層的な構造として提示した。

(1)汎領域的な造形創造の基礎教育として、1970年前後のミニマリズム美術。(2)造形的創造の主な方法を学ぶ基本教育として、1920年代抽象絵画に代表されるモダニズム美術。(3)従来の美術の枠組みを超えて総合的な創造活動として、1990年代以降に浮上したメタ・コミュニケーションのアート(メディアアートやソーシャリーエンゲージド・アートなど)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代美術教育に代わるカリキュラムの構想を、題材群の開発と共に提案する試みは少ない。本研究では、モダニズムを歴史的に遡ることにより、20世紀の美術教育を正統に継承している。同時に、今日のアートが開く新たな教育的ビジョンを重層的に組み込んでいる。モダニズム美術教育の再把握によって、基礎教育の地平と、いくつかの主要な芸術創造のディシプリンを示すことを得ている。さらにコミュニケーション活動を批評的に創造する近年のアートの方法を、領域横断的な創造教育のモデルとして示している。これらによる重層的なカリキュラムモデルは、近未来の美術教育のビジョンとしてきわめて現実的なものであろう。

研究成果の概要(英文)：This study presents a curriculum model of art education in the 21st century, which is said to be the post-art era, as a multi-layered structure of the following three parties. (1)Minimalism art around 1970 as a basic education in pan-regional visual art. (2) Modernism art, represented by 1920s abstract painting, as a basic education in the main methods of visual art. (3)Meta-communication art (media art, socially-engaged art, etc.) that emerged after the 1990s as a comprehensive creative activity that transcends the conventional framework of conventional art.

研究分野：美術教育

キーワード：美術教育 母子カリキュラム開発 ポストアート モダニズム芸術

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は教科教育学としての美術教育学、そのなかでのカリキュラム開発に属するものである。1990年代以降、教科教育学でのカリキュラム研究は低調であり続けている。成熟期近代における大きな社会変動に伴って、パフォーマンス型の学力観から、コンピテンス型学力観への重心移動、教科横断型教育課程や総合学習の隆盛は、教科のディシプリンを軸とする教育とその学びにとっては、逆風となる。他方、美術(アート)の世界では、1990年代以降には、従来の美術教育が基盤としていたモダニズム・アートから離脱したメディアアートや参加型アート(リレーショナルアートやソーシャリー・エンゲージド・アートなど)が浮上し、これまでの近代的な美術の枠組みを批判する「メタ」アートや「ポスト」アートとしての性格が濃厚である。

とりわけ、美術教育にとって興味深いことは、この1990年代以降のアートには、強い教育への親和性と志向性が内在していることである。メディアアートは多様なコミュニケーションの諸メディアを組み合わせ、新たな対話のモードを創造する。参加型アートは政治を含む社会の多様な文脈にコミットする方法を創造する。これらのアートの方法は、21世紀に求められる教育、例えば21世紀型スキルなどが求めるリテラシー群と大きく重なるものなのである。

本研究は、以上のような教育とアートの1990年代以降の状況のなかで、21世紀の美術教育のビジョンとその枠組みとカリキュラムを示そうとして始められたものである。

2. 研究の目的

本研究は、1990年代以降の教育とアートの大きな変化に対応する21世紀の美術(アート～芸術～創造)教育に向けてのカリキュラムを開発することにある。

従来の美術 20世紀に形成されたモダニズム・アートへのメタ・アートの位相を持つメディアアート、ポストアートの位相を持つ参加型アートは、これからの創造の学びにとって重要なコンテンツである。多様なアートのメディアを駆使するメディアアートは、領域横断的で総合的な学びの方法でもあるし、参加型アートでの主体的なコミュニケーション創造は、協働的な学びのモデルを提供している。とは言え、これらのアートの方法は、20世紀に形成されたモダニズムのアートと無縁ではなく、モダニズムアートの様式・モード・手法の批評的な再布置化とでもいふべきかたちで、その創造がなされている。

コンピテンス型の「学び」が、パフォーマンス型の「教え」を前提とするように、1990年代以降のアートの創造は、それまでのモダニズムアートの方法を前提とする側面を強く持ち、これからの芸術的創造に関わる教育は、それゆえ、モダニズムとポスト(レイト～オルター)モダニズムの性格を複合的に併せ持つ重層的な構造となる必要がある。

以上のような基本的なコンセプトに基づき、以下を具体的な目的として設定した。

- (1) 批判的に再把握されたモダニズムのコアを[基本]的教育のカリキュラムとして示すために。
 - a) モダニズム絵画におけるドロ잉とペインティングの関係からイメージ創造の基本的ディシプリンを抽出する。
 - b) [図のみの絵画 = ミニマル絵画]と[地のみの絵画 = 抽象表現主義絵画]から[図と地の成熟した関係 = マティス絵画]へと遡行する絵画史から抽出したディシプリンを、イメージ創造のカリキュラムとして構造化すること。
- (2) モダニズムの最終形態である1970年代の還元的な美術の方法を[基礎]的教育のカリキュラムとして示し、[基本]的教育との系統的連続性を示すために。
 - a) 「造形遊び」を汎領域的[基礎]教育として再把握し、その教育のエッセンシャルな根拠としての現代アートの諸方法を位置づけること。
 - b) 現代美術の歴史を遡行するかたちで、[基本]的教育への系統的なカリキュラム展開を示す。
- (3) 1990年代以降のポストモダニズム(～オルターモダニズム)のアートをメタコミュニケーション(コミュニケーションとは何かを批判的に問いかけるコミュニケーション実践)の教育としての総合的なアート教育として位置づけるために。
 - a) メディアアートにおける美的コミュニケーションの方法とモードを、メタコミュニケーションとして教育学的に再把握する。
 - b) リレーショナルアート、ソーシャリー・エンゲージド・アートなどの参加型アートの方法を教育的に再構成し、[メタコミュニケーション教育]として学校教育への展開の可能性を探る。その際、[基礎]と[基本]的教育のカリキュラムとの構造的関連性を示す。

3. 研究の方法

本研究は教科教育学としての美術教育学に属するものであるが、その元来持つべき実践性を豊かなものにするために、研究の方法を決定する研究組織に、二つの実践性を持たせている。第一は教育実践の場との強いつながりであり、第二には芸術実践との強いつながりである。

第一のためには、研究代表者が20年以上にわたって継続してきた教育現場との共同研究の組織「和歌山大学美術教育研究会」(小・中・高・大の美術教育担当者十数名で構成)での討議があり、第二の実践性のためには研究分担者や研究協力者にアーティストを迎えている。美術教育の理論研究の基本は、美術の世界と教育の世界を実践性のなかに出会わせることにあると考えられるが、この研究組織は、21世紀のための新たな美術と教育の出会いを、私たちが組織化したものである。研究分担者として永沼理善(和歌山大学・現代彫刻)、研究協力者として鷹木朗(京

都造形芸術大学・絵画) 湯川雅紀(関西福祉大学・絵画) 辻大地(大阪成蹊短大・幼児教育+現代美術) 北野諒(大阪成蹊短大・美術教育+鑑賞教育) 保富仁之(和歌山県立田辺高等学校) 南洋平(和歌山県立粉河高等学校)は、それぞれのかたちで芸術創造の実践と教育のあらたなかたちを探求している方々である。研究協力者が毎月1回開催される和歌山大学美術教育研究会に参加するなかで研究は進められた。

本研究におけるカリキュラム開発の方法は、二つに大別できる。第一は、カリキュラムの理念や根拠、教育内容と方法の整合性などに関わる理論的アプローチであり、第二は、カリキュラムを具体的に構成する題材開発での実践的アプローチである。

第一の理論的アプローチにおいては、上記の「研究の目的」に示した1~3に沿ってそれぞれの時代と芸術潮流における典型的な作家の研究を行い、その作家の核心的な方法を抽出することが基本的作業となった。そこで抽出されたアートの方法は、研究会での教育実践者を交えた討議を通じて、美術教育の題材としてモデル化される。教育実践者は、それを担当するクラスにあわせて題材化を進め、実践し検証を行い、研究会での討議にフィードバックする。この題材化の各段階でメンバーによる作品の試作やメンバーを対象としてワークショップが行われ、理論的アプローチは、つねに実践的なアプローチから試され検証されることになる。

4. 研究成果

1990年代以降、美術と教育の世界は大きな変動を見せた。教育の世界では、情報化とグローバル化のなかで成熟期近代の教育改革が進行し、コンピテンス型学力観への移行が叫ばれた。さまざまな批判もあるが、地球的な意識が浮上し、情報化の流れと重なりつつ、教育変革の底流をなしている。他方、美術(アート)の世界では、90年代以降、メディアアートと参加型アートの動きが注目される。共に近代的なアートの枠組みを越えて、新たなコミュニケーションモードを創造する試みであり、政治を含む社会意識や情報を含む環境意識を強く背景に持つ。メディアアートにおけるさまざまなボーダーを越えていくコミュニケーション実践や、参加型アートにおける非西洋の世界(東南アジアや南米など)からの強いメッセージ性は、教育に大きな示唆を与えている。

21世紀の美術教育に求められているものは、近代的な教育と美術の制度を乗り越えて、新たな創造的コミュニケーションのなかに、創造性を培う教育の内容と方法を模索することであろう。とはいえ、創造は過去のメディアやモードと無縁の場所に生まれる訳ではないし、「学び」は「教え」と密接な関係を持って教育課程のなかに位置づけられなければならない。新たな創造の学びは、過去のとりわけ近代(モダーン)の「アートの教え」に支えられる必要がある。

本研究では美術教育のカリキュラムを、1970年代までのモダニズムアートと1990年代以降のアートによる重層的な構造として構想した。ここの重層的なカリキュラム構造を探求すべきであるとのコンセプトは、本研究の出発点でもあるが、その構造の必要性を再確認し、明確なものにできたことが、研究の成果として第一に挙げられる。

第二には、そのカリキュラムを構成する題材群の開発である。美術教育の「基礎」的ディシプリンを構成する物質性や行為性に支えられた感覚教育を根拠づけるものとしての、モノ派やコンセプチュアルアート、さらにそれらと絵画メディアを結ぶJ・ポロックのポーリング絵画などが主要なものとして挙げられる。

ミニマル絵画からマティス絵画へと遡行するディシプリンの軸に関しては、E・ケリー、B・マーデン、B・ニューマン、M・ロスコなどの絵画作品研究と題材化が示されたことが大きな成果である。それらは研究代表者による先行科学研究でのモンドリアンやマティスに関わる題材群と関連付けられることによって、モダニズムを遡行する造形創造の「基本」的なディシプリンを示すことができた。

また、1990年代以降のメディアアートについては、研究代表者の先行科学研究での成果を踏まえつつ、参加型アートに関していくつかの典型的な題材開発を試みることができた。残念ながら未だ明確な構造化を示すまでには至らなかったが、今後の課題として研究を継続したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 鷹木朗	4. 巻 143
2. 論文標題 「 [造形・以降] の時代に基礎課程を考える 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本美術教育学会会報	6. 最初と最後の頁 pp.1-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷹木朗	4. 巻 22
2. 論文標題 「 鷹木 朗 展 」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 京都造形芸術大学紀要	6. 最初と最後の頁 pp.14-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻大地	4. 巻 40
2. 論文標題 保育内容（造形表現）における描画題材の設定内容に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術教育学会	6. 最初と最後の頁 pp.269-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北野諒	4. 巻 16
2. 論文標題 「 未成の形態 - 造形遊び・現代美術・幼児の造形表現の総合的分析へ向けた試論 - 」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪成蹊短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 pp.91-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沼理善、藤田絵理子、他11名	4. 巻 なし
2. 論文標題 附属特別支援学校高等部美術授業 協働学習による人間関係形成力へのアプローチ 中学校専科・特別支援学校・大学教員連携授業「メタルワークス」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 和歌山大学教育学部連携時事業 平成30年度 成果報告書	6. 最初と最後の頁 P.125～P.129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永守基樹、永沼理善、鷹木朗、保富仁之、湯川雅紀、西井恵美子、辻大地、南洋平、北野諒、他10名	4. 巻 第1号
2. 論文標題 「ポストアートの時代に構想する参加型アートを援用した美術教育－実践の試みと理論的課題」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『平成29年度和歌山大学教育学部 附属校・公立学校との連携事業成果報告書』	6. 最初と最後の頁 pp.97-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沼理善、高木栄一、山崎直秀、寺川剛央、高橋健一	4. 巻 第18号
2. 論文標題 小学校図画工作科・中学校美術科の教員養成における絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史の授業実践報告 研究編	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 造形芸術研究	6. 最初と最後の頁 pp.46-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 永沼理善、高木栄一、山崎直秀、寺川剛央、高橋健一	4. 巻 第18号
2. 論文標題 小学校図画工作科・中学校美術科の教員養成における絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史の授業実践報告 実践編	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 造形芸術研究	6. 最初と最後の頁 pp.60-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北野諒、辻大地	4. 巻 第18号
2. 論文標題 幼児の表現活動における対話に関する研究 - グループでおこなう造形表現の活動事例から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 造形芸術研究	6. 最初と最後の頁 pp.1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 南洋平	4. 巻 第18号
2. 論文標題 美術科批評学習の方法に関する一考察 - ディープ・アクティブラーニングとゲーヒガンの探求批評学習モデルとの関連性に着目して -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 造形芸術研究	6. 最初と最後の頁 pp.38-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西井恵美子	4. 巻 第18号
2. 論文標題 21世紀の美術教育における造形遊びの再定義 - 図画工作科教育の「基礎」をめぐって -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 造形芸術研究	6. 最初と最後の頁 pp.76-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 辻大地	4. 巻 41
2. 論文標題 保育内容(造形表現)の描画活動の設定内容に関する仮説の検証	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術教育学-美術科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 P.237-P.248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南 洋平	4. 巻 -
2. 論文標題 ゲーヒガンによる探求ベースの批評学習モデルを援用した学習法-高等学校における作品 情報の活用に着目した実践から-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術科教育学会千葉大会予稿集(美術科教育学会)	6. 最初と最後の頁 p.88-p.88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北野諒	4. 巻 2
2. 論文標題 ブライス・マーデンの絵画をモデルとした幼児の造形表現(描画の発達段階)の追体験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪成蹊教職研究	6. 最初と最後の頁 p.112-p.117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北野諒	4. 巻 -
2. 論文標題 逸脱の術:矛盾形容語法としての「美術教育」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術科教育学会千葉大会研究発表予稿集	6. 最初と最後の頁 p.80-p.80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 保富仁之	4. 巻 -
2. 論文標題 [絵画・以降]の時代に構想する絵画教育の題材開発 -ブリジット・ライリーの「ストライプ絵画」が生み出す線と色彩の相互扶助-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術科教育学会千葉大会研究発表予稿集	6. 最初と最後の頁 p.24-p.24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 湯川雅紀、宇津木七実	4. 巻 18
2. 論文標題 保育者養成校における色に対する理解を深めるインスタレーションの授業	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学造形美術教育研究	6. 最初と最後の頁 p.86-p.89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 永守基樹
2. 発表標題 「実践的美術教育学のために」(シンポジウム基調講演)
3. 学会等名 和歌山大学美術教育研究会主催シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鷹木朗
2. 発表標題 「生きる態度として美術を考えることは、制作と教育を止揚する」
3. 学会等名 和歌山大学美術教育研究会主催シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保富仁之
2. 発表標題 「研究会」は緩やかな螺旋を描きながら進化する
3. 学会等名 和歌山大学美術教育研究会主催シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保富仁之
2. 発表標題 [絵画・以降] の時代に構想する絵画教育の題材開発 - ミニマル絵画の題材がもたらす教育的効果について -
3. 学会等名 美術科教育学会 第41回美術教育学会 北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 湯川雅紀
2. 発表標題 [絵画・以降] の時代における図工・美術科の題材開発 - ブライス・マーデンの線と色彩による絵画教育
3. 学会等名 美術科教育学会 第41回美術教育学会 北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 辻大地
2. 発表標題 現代美術作家サイ・トゥオンブリの始原のドローイングと、幼児の描画活動に関する研究
3. 学会等名 和歌山大学美術教育研究会主催シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南洋平
2. 発表標題 美術科「批評学習」の意義と可能性についての実践的考察-ゲーヒガン「探究批評学習モデル」の紹介を通じて-
3. 学会等名 第55回全国高等学校美術・工芸教育研究大会（2018埼玉大会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 南洋平
2. 発表標題 実践的研究のための「批評」について
3. 学会等名 和歌山大学美術教育研究会主催シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北野諒
2. 発表標題 「美術室で米を炊く - 造形遊びから関係遊びへ - 」
3. 学会等名 美術科教育学会 第41回美術教育学会 北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保富仁之、湯川雅紀、上田音々、壺井彩絵
2. 発表標題 [絵画・以降]の時代に構想する絵画教育の題材開発 - 幼児の造形活動・小学校図工科への応用可能性について -
3. 学会等名 美術科教育学会滋賀大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鷹木朗
2. 発表標題 美術・デザインの扉を開くための題材開発の試み - コンセプチュアルアートから参加型アートへの展開を参照して -
3. 学会等名 美術科教育学会滋賀大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小野康男、大橋功、永守基樹
2. 発表標題 新しい学習指導要領を考える
3. 学会等名 日本美術教育学会大阪大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 金子一夫責任編集，永守・水島・直江・相田・山木編，金子・赤木他16名による分担執筆	4. 発行年 2019年
2. 出版社 学術研究出版/BookWay	5. 総ページ数 233
3. 書名 『美術教育学叢書 2 美術教育学の歴史から』	

1. 著者名 永守基樹:責任編集，永守他14名による分担執筆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学術研究出版/ブックウェイ	5. 総ページ数 208
3. 書名 『美術教育学の現在から』(美術教育学叢書)	

1. 著者名 著者名:永守基樹・鷹木朗・保富仁之 他28名による分担執筆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 264
3. 書名 『美術教育ハンドブック』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	永沼 理善 (NAGANUMA TADAYOSHI) (20304173)	和歌山大学・教育学部・教授 (14701)	
研究協力者	鷹木 朗 (TAKAGI AKIRA)	京都芸術大学・芸術学部・教授 (34319)	
研究協力者	湯川 雅紀 (YUKAWA MASAKI)	関西福祉科学大学・教育学部・准教授 (34431)	
研究協力者	辻 大地 (TSUJI DAICHI)	大阪成蹊短期大学・幼児教育学科・非常勤講師 (44413)	
研究協力者	北野 諒 (KITANO RYO)	大阪成蹊短期大学・幼児教育学科・講師 (44413)	
研究協力者	保富 仁之 (HOTOMI HITOSHI)	和歌山県立田辺高等学校・教諭	
研究協力者	南 洋平 (MINAMI YOUHEI)	和歌山県立粉河高等学校・教諭	
研究協力者	西井 恵美子 (NISHII EMIKO)	和歌山市立藤戸台小学校・教頭	